



特別
~ 13
1448
1



特 13 遠へ
1448
1



る
る



新色又まき書序

花よ碎るる紫ううかこほしおほし
をよ比都する。る濃乃樵木舟り急の
重荷と積てうさるを流。大和りわく
女舞も。新波乃る跡のまおとまおよ深。
周懐とわる藤衣ハ有るれり乃る名を
はせ乃かさりと變り。對するの私歌ハ心の
揮とさり遠く。名と堀は乃化流ま。



武藏野乃為い。と云ふも、さるより、ち落れ命と
 吹こゆされと。汝り得え、改清くして、かこ
 こさふつ、乃きよ、拙筆ていしとして、書流くね
 ころ。文字かんか、乃あたまりも、名ん人乃
 笑、存われ、存乃、種たねうま、い、敷あくけり

元禄拾一寅祭月

野波書は若從道月与志編



新色五巻書

高瀬川より木乃能

一之巻 月景

一 宇波俵乃物矣

うちたけのもののな

あつし、習書せりのいろは
 ひかまひ、乃史復、復るを仲

二 子次捨る物乃敷

こじのすてものな

子の信とけ乃道、あつし
 前、及百目請、取、茶、よ、女

子次上巻書

三 高津川より舟たうせくくのりふね

親トガ氏ニ後妻乃取
以慕あり情乃よりけ
かよひ成はんでや流乃川舟

四 八坂ハ恋乃より坂やま

紙園町乃入込家乃棚あり
万葉文が是居ハ無分別のぬけが
たまりの成はく衆の命毛

五 最月九七日乃る明しつげつ

恋うらもたる欲乃なげさ
まけ敷そくせ飛なまがさ
わづるむら成とれく見村の宿

一 宇治依乃物也うぢい

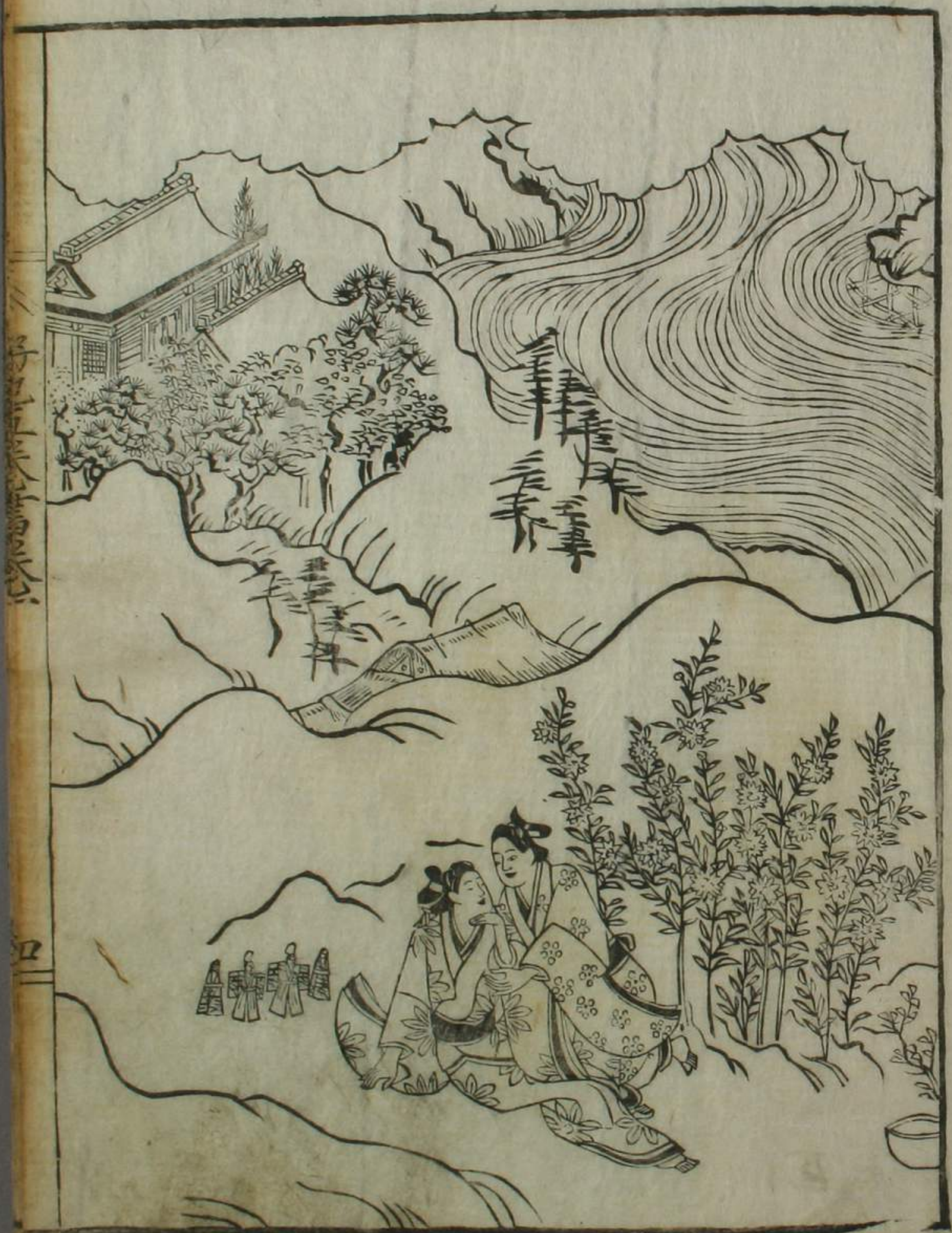
夏乃目水仙と園を秋乃ふかしの時梅咲世念のなる木ハ高の
因かり一坂道の末乃人ハ萬うくなまは正一青のハ九坂登
乃嫁入なりがとまより嫁人さうやうなめて十三世の元頼
がおお孫とい道賢おひ乃びつる京大坂よりさう次と奥山
のきよと袖人もおといまねをけ。成や流儀乃兼備とい一村
乃よまよ。毛成をぶひくをさとと東里兼はのり人夫勢うに
わがもをとりぐなる物流とまに老い友の後生西乃中乃あ
東乃心の跡とわくそよ中あわりをわく立を候子流せうこ
わり。まはゆり色鳴乃男とめんくはとそりへてなんと思ふ
そあま。わのち扶老んとりゆりなりハ大事なるの事
久七とち男乃あつといま。わさうはに風ひをちづせんなる南村

人のつゝ安んずておぬきさるり。よけひては是と云ふ下書
りて。さくく。なまら月か。のび。草。家。おん。する。よ。
と海よくと。さ。さ。り。と。も。と。ま。と。り。の。言。は。は。
よ。風。は。雲。の。柳。橋。先。う。う。う。あ。あ。あ。

二 子以捨る故に救

浮きありのり。あ。あ。あ。の。ま。ま。の。平。等。港。り。花。見。お。ん。く。り。
た。り。ん。風。呂。波。は。く。の。舟。赤。橋。り。小。枝。中。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
ま。く。ま。人。娘。の。お。あ。あ。あ。い。と。く。が。一。城。う。う。う。せ。親。父。が。お。お。子。
拍。子。は。海。浪。り。の。あ。あ。あ。あ。あ。り。小。津。浦。は。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
り。あ。娘。が。ひ。い。て。入。目。う。う。う。う。う。う。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
の。ま。ま。か。と。と。な。り。の。あ。あ。あ。あ。あ。り。て。後。う。う。う。う。う。う。う。う。
ひ。い。て。母。を。死。せ。て。親。が。た。り。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
り。死。よ。う。

登より月の変を起して夢のまをこく。に。せ。死。自。然。の。り。て。
う。と。く。毒。を。死。神。を。同。い。ひ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
親。と。ま。る。る。と。思。ひ。乃。物。を。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
付。親。と。ま。る。る。子。を。人。娘。小。津。浦。は。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
三。度。娘。乃。こ。か。び。ん。の。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
せ。ん。ト。お。ま。見。は。費。て。身。命。と。は。お。ま。ま。の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
あ。り。の。昔。方。お。ま。あ。り。中。よ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
め。ん。く。ん。娘。付。の。り。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
り。と。く。く。ま。人。の。ま。
さ。ん。肉。焼。あ。り。川。乃。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。
や。と。く。草。乃。す。ま。ら。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
よ。兼。金。も。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。
登。り。年。貢。乃。物。引。と。ま。て。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。



女子五人書卷一

12



女子五人書卷一

13

さいふくはんが程もさたびとくまのいもはぐくのりこと志
 業乃物よりあつくり。先よの月ごと月十日もわつる。娘がま
 びつじ。海程わんどても金乃なり木をなす。いふまにそも傍
 角すぬりもなつぬけ身乃音。物なきてさつぐ。あはひそ
 うに奉公よか。いふまにさつぐ。親はぬく玉乃と丸圓をか
 一。未年乃好ぶ方に金。いふまに娘のさける物か。とら成今
 久にが。いふまにそ去年乃年貢乃。いふまにそ去年のいふまに河
 とそさつぐ。いふまにせんじ村といふまにそいふまにそ
 にいふまにそ丸にどん。いふまにそ大方のまはつて中りく年
 貢乃。いふまにそいふまにそ。いふまにそ秋奉公よか
 せん奉公のいふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ
 水八百目かり。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ
 といふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ

舟して。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ
 が今。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ
 らし。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ
 身と捨て。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ
 流か。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ
 りに。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ
 たり。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ
 夜。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ
 友。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ
 下。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ。いふまにそ

んぢのひがらゝ函かゝん伏見乃京橋をいそぐなりぬら
 子姫ありてわらわてあゆまらるるぞうた親父を商後とて
 今日うおまの娘おまの目とまらふおはゆりまこといつと
 乃る知あるはまらうとどお後なまらうとて此身今三里ま
 ぬらなまらとすすたが雲にまて人親のまらゆらわ後乃
 わらうらわらわらまら有けまらまら志業乃出り。由香乃
 宮より飛二折まら六分まらまら二人まらひららるるなりと
 とまらまらなり。縮荷乃おまら坂乃といまらまらまらわら
 まらり伏見まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらてあひおらりまらまらまらまらまらまらまらまら
 飛乃まらまらまらまら。京乃飛乃まらまらまらまらまら
 おまら飛乃まら京乃飛乃まらまらまらまらまらまらまら
 勢乃飛乃まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

つらぬいどのまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 にあり。因後まらわらまらまらまらまらまらまらまらまら
 ぬおまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 無ん。まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 乃指合せありまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまら。鼻初ありて腰付まらまら。髪まらまらまらまら
 のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 百目まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら



大坂和

りひをり。木に餅なり。あやうにふかき。年五十三
なまごはら。まなりの。本。旗。国。町。の。こ。や。う。う。れ。て
わ。の。ゆ。め。ん。あ。げ。ま。ふ。先。食。ま。の。ま。の。あ。り。陽。の。の。人。今
五。路。ま。日。六。分。長。ま。う。付。て。あ。ま。ま。と。際。を。に。う。り。ふ。も
秋。あ。り。す。ま。の。の。の。を。あ。ま。一。舟。て。百。月。あ。て。彼。方。像。の
う。り。入。湯。の。着。あ。ま。う。り。と。り。と。あ。や

三 高津川上り舟

り。水。の。流。く。人。の。身。理。を。あ。い。な。り。せ。ま。す。り。ご。も。う。ま。り
と。見。る。浮。せ。な。り。こ。ね。が。ま。し。ゆ。く。な。う。ね。が。浮。せ。り。こ。の
親。あ。な。け。こ。ご。子。ま。ま。の。と。ま。六。浮。せ。り。す。え。言。ま。ふ。子
捨。る。藪。の。あり。身。の。捨。る。く。し。て。命。と。り。ま。せ。り。な。り。ひ
せ。り。武。藝。の。あ。ら。う。お。ね。な。く。に。義。の。道。賢。も。守。徳。の
こ。ご。は。ま。か。え。た。二。つ。の。り。う。り。智。の。こ。の。岡。助。お。徳。は。り

世。仇。も。あ。り。あ。げ。は。り。か。り。ふ。り。を。れ。を。り。着。し。か。な。く。こ。ん
り。あ。ま。え。け。の。の。華。盛。の。あ。ら。う。と。ま。あ。ま。り。と。こ。の。け
と。こ。ご。先。と。う。の。口。の。の。れ。か。二。分。と。ま。の。と。り。人。も。道。の
ま。あ。ら。う。の。て。儀。軍。人。と。な。り。愛。し。人。と。持。と。な。り。数。年。の。あ
寺。ま。と。り。て。五。程。の。唐。吟。の。あ。ら。う。て。六。日。か。ま。も。あ。ま。り
と。の。儀。軍。人。と。な。り。世。の。あ。ま。り。の。あ。ら。う。と。り。と。ま。り
て。着。し。う。の。の。あ。ら。う。と。り。と。ま。り。と。り。と。ま。り。と。り。と。ま。り
ら。ど。の。儀。軍。人。と。な。り。旗。国。町。の。こ。や。う。う。れ。て
あ。ま。年。の。て。流。入。百。月。と。ま。の。先。ま。ま。の。小。女。も。あ。て。来。年。の。あ
う。の。あ。ら。う。と。り。と。ま。り。と。り。と。ま。り。と。り。と。ま。り。と。り。と。ま。り
ま。ま。入。今。日。極。の。流。入。と。ま。り。の。儀。軍。人。と。な。り。と。り。と。ま。り
事。り。流。入。の。流。入。の。あ。ら。う。と。り。と。ま。り。と。り。と。ま。り。と。り。と。ま。り
流。入。百。月。の。あ。ら。う。と。り。と。ま。り。と。り。と。ま。り。と。り。と。ま。り。と。り。と。ま。り

ちりし。のち養父よはすむは身の懸あらく。何しなれ
 ういぬらどく。野山よりて種をすむ死後子に知恵付
 らしてはあふんぬ小判。自今以後。此のまゝとてあいに
 まゝの娘よと海の子たるじりありて。さばかりなまかしく
 何れもともまらざる実徳をすむ。是れが遠縁の止
 氣不いよと。用ひりて親父種もよと。成りて。さよ入
 り入りり。今一紙算用して。何れもあつたり。さよ入
 右堂年貢乃。親定七ひ成す。今年と詭口せり
 ありし。成りて。何れもあつたり。今年と詭口せり
 取目あつたり。成りて。何れもあつたり。今年と詭口せり
 年。後素といへて。種やの同り。床の世の念仏。世に
 なく。今んぬとく。いかに同儀の。取まやどり。うと。保
 常。徳。助。と。さよ。成り。ゆて。何れもあつたり。親父乃。ゆ



成りしに女もいりてやうきあかぬかたをみだん
のまのくにむしなくはらひしとありて明もあはれ
たのむむろなるとも明日をゆりせん。このかり
わづらもんぢよとこあといひぬいそぬを入相り
かしの言ふたつとてかかしのぬきぬるあぶぬ
と海乃さびしきう小波ながみぬゆりてあつて
指のぬしんとりすきぬいとふのりて身代紙
本舞よのりのあのおらさき。松葉屋といふ
てりたよはに掛廻り同金魚は子障を身代紙
こまが産屋よは松葉のらうぬふりてあつて
いしとなくふく思ひにぬよるとあつて浮橋
二交りあつてあはれいやうかういやうか
かのせや



八枚の赤乃くさり坂

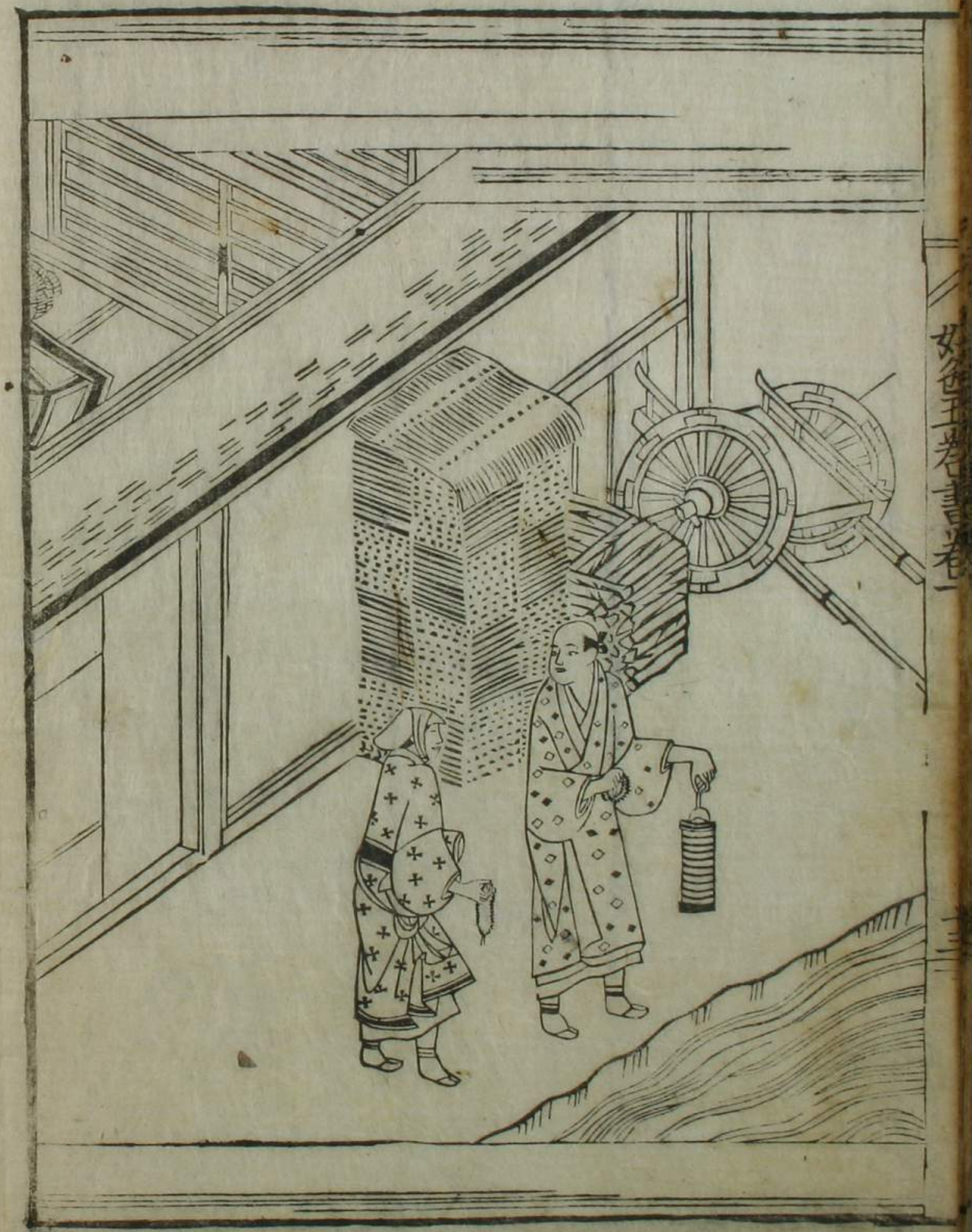
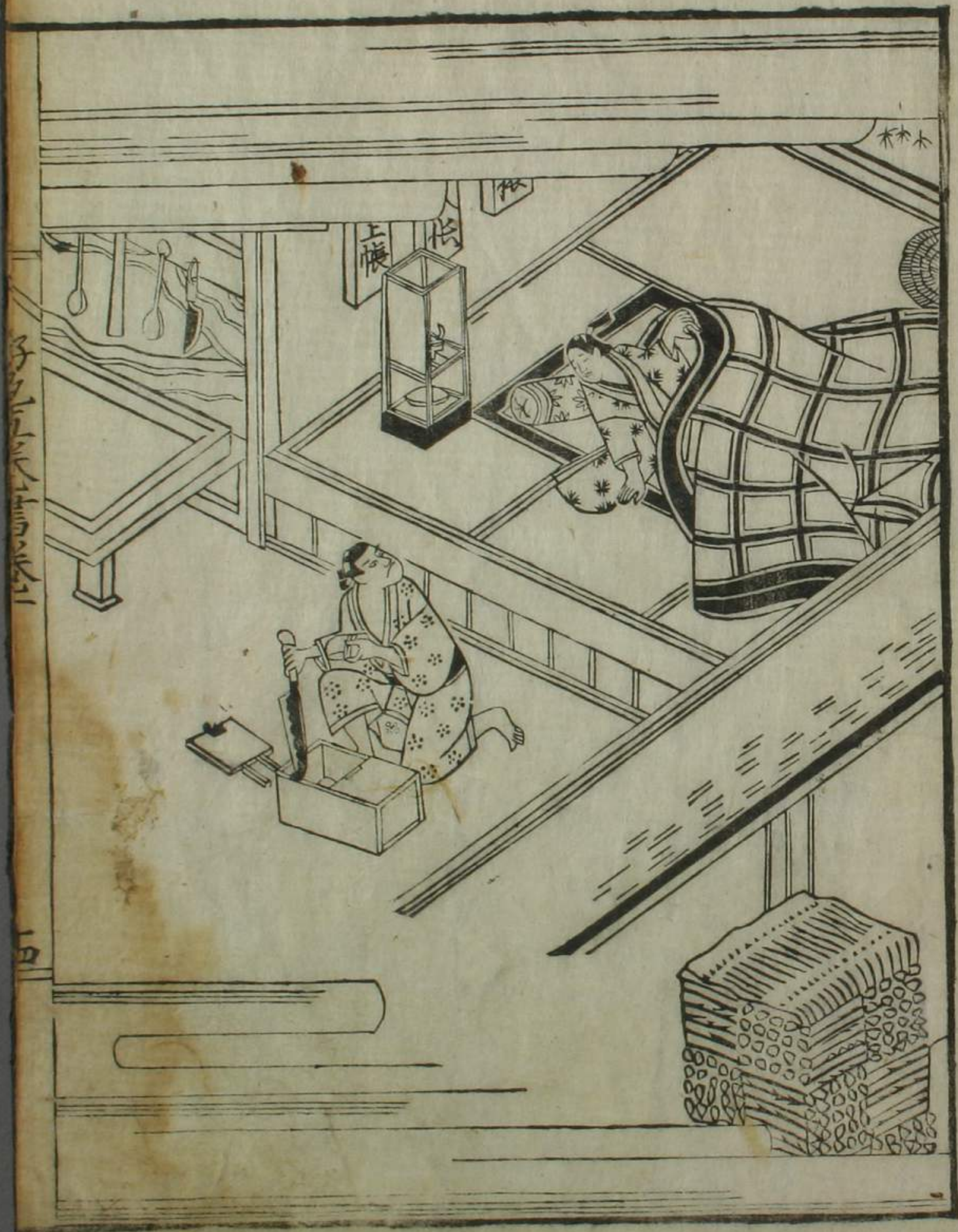
祇園所り風氣お吹又の傍くづぶさくも勢虎ち川の
 床入測き草すどわらうとすう程さうてまうごめん
 の言夜明乃鶴次伴依鳥とわぬひ川云のあどひ
 ちくまん海りのこしかど黄長慶屋がまよ野と三方里
 ぐり床入乃稱すき草あぶりの鼻紙入早とてりんく
 が肉よれらる又の物舞用のあかりあさしなひなれたひ
 かり又なるを越して兼盛女乃はとあぶらとひらひけあ
 らし移るがわら月よりひさすれ八つもたかりてのあわ
 かしして下男にひらとれとうとどをさふせてぬごかん
 ちくまんのわんどのすくまん棚乃あまうしこもひてひび
 ぬけり親あふりく肉あやうんで押の付込あ屋振あひ
 女部乃あそととあかいてスアのあひま直くもあうしのこ人の

鳥乃御んかして二階を守町のまねたこの七もまぬハ
 かんご七通いよいでもあさうすあひや人数むりといふ
 かし人よとむゆもあけ入七をあひせりあさうやと
 うどんをのあひりもうごせとや何れううくあやうとあ
 ちゆんあわらうやあ真座あハ二條乃平太あ人つとや
 里じかしり七二振先々衣座ゆへあゆあさうたりえり
 を時ハ中ああいてどんとゆせらん心先ハ二座は付てか
 と欲は目玉乃りらん平人上うう座あハ室所乃中あ
 ち將あは六座七がま乳しと見え人つとあやまうあ
 せ九市あわあひてをゆえあ乃木香屋あひあらん
 とんちうととうとひんを恨まごあといかり親しと二人と
 付てま人のんああだちりくりあうくあんそあ
 ありまうがあしを後物射あらんあひてりけあういか

多分、此はおかぬは後、いづれもむかひのついでと傳へ
 せんりやりのひがとて先とのてかつおきと幸五に後
 色紙とて一ひよりとどろくかやせ。あとも二つとて
 ふまわり。なほあはれよとてなんど。うまみとてハ酒代も
 とねおきは忠度の来、いづれかかと孫利なりと後、
 ありたり。なんのちあつとて、あからんせりも、
 局よ床入色紙とて、今日り次とてあつたりとせぬとて、
 とく、いづれなりとて、世具をうし。そは、あつ川乃六平、おは
 是れより人、世はあつ川とて、銀すぬとて、いづれなり。
 色紙とて、いづれなりとて、いづれなりとて、いづれなりとて、
 いろでも、いづれなりとて、いづれなりとて、いづれなりとて、
 ひとく、いづれなりとて、いづれなりとて、いづれなりとて、
 長夜のついで、いづれなりとて、いづれなりとて、いづれなりとて、

此長夜乃、あつ川とて、いづれなりとて、いづれなりとて、
 是れを、今日りとて、いづれなりとて、いづれなりとて、
 せしより、いづれなりとて、いづれなりとて、いづれなりとて、
 ののと、世はあつ川とて、いづれなりとて、いづれなりとて、
 け、いづれなりとて、いづれなりとて、いづれなりとて、
 とい、いづれなりとて、いづれなりとて、いづれなりとて、
 乃、いづれなりとて、いづれなりとて、いづれなりとて、
 せい、いづれなりとて、いづれなりとて、いづれなりとて、
 ため、いづれなりとて、いづれなりとて、いづれなりとて、
 ん、いづれなりとて、いづれなりとて、いづれなりとて、

今、いづれなりとて、いづれなりとて、いづれなりとて、
 今、いづれなりとて、いづれなりとて、いづれなりとて、



ともひてなく種あかりわとも。ゆんくく勝軍の傷。をん
 のりしはまのりんとうようぬんくく付けるも是悉病なりかこ
 のりしはまのりんとうようぬんくく付けるも是悉病なりかこ
 種へんが面白勝は欲し一頁よあひいけ二つよまうて一
 ちがらぬのそし休見まりのやを全五兩法取より赤乃屋
 帯十八きえとぞうらるまむのふまて天通ははまを録りて
 是を念なるれつこひひよ血病わらるまむのふまて天通ははまを録りて
 へき知る袋親方の首尾成るぬた。人まごるにたをりす
 突かたの戸成てまぬ。そ夜はあ月九七日。あふまてく
 瀬川。梅成なるあ門に松葉を法あつとそいぬ。年六十三
 流あ種なるまなり。是成はあんえとむ。は代乃氏をゆよ
 ぬいけりせとこ。そり未賣あなこむ。うらうらぬ常しなり
 け長着のやせうぬ金銀乃使よ具常ぬ。今の録り初夜こ

さらりとあにふやのときは見討あぬありぬ。ぬん
 する小柄となく。明日金まよとす。金銀よりやぬと。おそり
 さいのより。是まよを死すなく。ぬんあ結ぬよひべし。よ
 とあせとこ。あひせのり鏡。孫耳にまて。あ境。そり箱より
 高を袋。綿帽子よりあし。わらりあり。乃ゆい。或業
 もあ成る。あひぬ。親。親。乃各目。あまよ。は法。乃
 つま。い。ご。とき。あひ。い。ぐ。あ。く。あ。ま。ま。く。わ。と。く。あ。あ。よ
 とつ付てありぬ。長着志業す。あ明日。或業。あま。り
 はゆ。ま。八。つ。乃。く。は。は。い。ひ。身。れ。運。余。こ。ひ。む。り。よ。ま。あ
 まりぬ。あよ。あ。ん。い。あ。る。方。あ。なり。あ。身。成。く。す。屋。し。さ。り
 な。が。う。是。程。あ。る。首。尾。ま。さ。り。わ。り。ゆ。だ。と。そ。も。金。銀。乃。ぬ。ま
 こ。ひ。そ。ふ。ま。乃。ま。あ。の。く。け。く。な。が。れ。あ。ま。り。と。ひ。す。と。ん。と。
 分別の物とありし。中。あ。乃。後。後。後。し。と。か。し。わ。り

けぬ乃種まへう是きていんすとすと。馬を舟月夜を
 送ひぢもあぢふうらうとくうらうとわあ川をわあ
 ちよまぢもらうせ飛たなくなごあま切三りりよま
 けて末初ますまきぬとふぐのへあふなひて又條乃橋
 舞よのり東海道あいなね。夜あけて焼成湯の堂うり下
 きていよあふうらうままる町を打うり。見休息又津丹波
 小玉も舞海乃そか十方にまわけり。あひくま人波
 らせ東海乃見付乃宿えとくあぢよひと上里家舞出ぬ
 けうあまたのり乃浮せ。あまのいこもあせう。あまら
 向うまひ鳴成安て音乃りふ大瓜をねね。是よりてうく男
 城月安し。今下立賣よ世帯するあつま入ふ道。孫おひぬ
 なら羨の肉りなりや

七

